

総合工学委員会総合工学企画分科会（第25期・第7回）議事要旨

1. 日 時 令和5年9月13日（月）10：00～12：00
2. 会 場 日本学術会議会議室6-A（1）及びオンライン
（日本学術会議：東京メトロ千代田線「乃木坂駅」5番出口 徒歩1分）
3. 出席者（敬称略）小山田 耕二、玉田 薫、筑本 知子、吉田 文、吉村 忍、伊藤 宏幸、岩城 智香子、塩見 淳一郎、出口 康夫
4. 欠席者（敬称略）伊藤 公平、伊藤 恵理、伊藤 貴之、辻 圭子、寺崎 一郎
5. 議 題
 - 1) 前回議事録（案）の確認
 - 2) 第3部夏季部会の報告
配布資料2をもとに、小山田委員長より、第3部会では、学術会議の活動全般・意思の表出の進め方・分科会・小委員会のあり方・政府有識者懇談会への対応・今後の取組予定について議論が行われ、特に学術会議の改革やポジティブな議論の重要性が強調されたことが報告された。また、吉村第3部会会長より、分科会・小委員会のあり方についても議論があり、委員長の選出や国際的な役割、分野や年齢に対する公平性、ルールと運営委員会の役割などが取り上げられたことが説明された。
 - 3) 見解について
配布資料3をもとに、筑本幹事より、まず、背景として、日本学術会議が、大学教育の分野別質保証について文部科学省からの依頼に基づき、2010年に回答を提出し、総合工学が新しい学問分野として重要視されていることが説明された。次に、現状と課題として、総合工学は社会的課題への対応に必要な学問であるが、具体的なアクションが不足し、総合工学で活躍する人材に必要な6つの力（俯瞰的な視野など）が挙げられ、現行の大学教育では、これらの力の育成が不足することが説明された。最後に、見解の内容としては、総合工学の基本的な指針がまとめられ、分野の定義、特性、基本的な素養、学修方法と評価方法が示され、現在、科学者委員会による査読を控えていることが説明された。
 - 4) 公開シンポジウムについて
配布資料4をもとに、玉田副委員長より、当日午後より開催される公開シンポジウムの概要に関して説明があり、ご参加の委員にはできる限り参加いただくよう依頼された。
 - 5) 第25期総合工学委員会の活動の総括
配布資料5をもとに、小山田委員長より第25期の活動に関して、まず、「総合工学」提言の咀嚼と深化の継続を行ったことが報告された。具体的には、まず、総合工学の概念やアプローチを深化させ、具体的な戦略と方針を策定・進化させるプロセスについて議論を行った。つぎに、総合工学を担う人材の育成のために、多様な分野からの学生が協力してプロジェクトに取り組む教育プログラムの設計について議論を行い、その結果として、総合工学分野の参照基準をまとめた。
 - 6) 「第26期に向けての関連分科会活動計画」（各分科会担当より）
配布資料6をもとに、出席委員により所属する分科会における活動状況、今期の課題、次期で検討すべきことについて説明が行われた。

7) 「第26期活動への引き継ぎ事項」審議

配布資料7をもとに、小山田委員長より26期の引継ぎ事項に関して、以下に示す4点の提案があった

- 「総合工学」の研究分野の体系と新しい研究評価基準に関する議論
- 科学的知識の創出を支援する教育戦略
- 核融合発電の研究と協力
- AI（人工知能）の利活用

審議の結果、26期の引継ぎ事項として上記4点が認められた。

8) その他

特になし

6. 配布資料

- 【資料1-1】 第25期第4回議事要旨
- 【資料1-2】 第25期第5回議事要旨
- 【資料1-3】 第25期第6回議事要旨
- 【資料2】 第3部夏季部会_報告
- 【資料3】 第25期総合工学委員会見解案
- 【資料4】 公開シンポジウム
- 【資料5】 第25期総合工学委員会活動総括
- 【資料6】 第26期に向けての関連分科会活動計画
- 【資料7】 第26期総合工学委員会への引継ぎ事項